

平成29年度 健康保険組合 全国大会

「迫る超高齢社会!皆保険の存続へ改革断行!」をテーマに「平成29年度健康保険組合全国大会」が11月28日、東京・有楽町の東京国際フォーラムで開催されました。

同日の大会には、健保組合関係者ら約3,500人が参集。大会では、健保組合、健保連の主張を4本のスローガンを掲げ、その実現に全健保組合が一致して取り組むことを決議しました。

けがや病気のときにお世話になる健康保険証。原則3割の自己負担で、全国どこでも医療機関に受診できます。じつは、わが国の医療保険制度は世界的に希有な存在なのです。その世界に冠たる日本の医療保険制度が、超高齢化に伴う医療費の増大と現役世代の過重な負担増で危機に瀕しています。もし、医療保険制度が崩壊し、これまでのように安心して受診ができなくなったら…。スローガンの1つに、高齢者医療制度への拠出金負担に50%の上限を設定し、現役世代への負担に歯止めを-という主張があります。これは、拠出金負担は加入者の皆さんにかかる医療費と同額までにすることを主張するものです。

また、「生涯現役社会」を後押しするため、健康な高齢者に「支えられる側」から「支える側」に加わってもらうことが重要と考えています。そのため健保組合・健保連は事業主と連携・協力して皆さんの健康保持・増進に、今まで以上に力を注いでいきます。

これらの実現を通じて、安心と納得のできる制度づくりを協力に目指していきます。

全国の健保組合が一致して取り組む制度改革に向けた活動に、ぜひ声援をお願いします。

健康保険組合全国大会スローガン(決議事項)

1. 拠出金負担に50%の上限、現役世代の負担に歯止めを
2. 高齢者医療費の負担構造改革の早期実現
3. 実効ある医療費適正化対策の確実な実施
4. 生涯現役社会を目指し、保健事業等の積極的な推進

